

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」宮城県医療救護活動従事者研修会を実施しました (2026/1/24-25)

テーマ：避難所データ収集、デジタル化、D24H、衛星電話通信

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2026年1月24日（土）-25日（日）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で令和7年度宮城県医療救護活動従事者研修会（主催：宮城県、委託：東北大学病院、実施：コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム）を開催しました。県内外の保健医療従事者（医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、放射線技師ほか）、行政職員ら計24名が受講し、33名のインストラクター・運営スタッフが講師として参加しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者、研修講師として運営にあたりました。

この研修会では、D24H (Disaster/Digital information system for Health and well-being) というシステムを利用し、手書きではなくスマホアプリ・PC入力を用いて効率的かつ正確に避難所データを集約・分析し、対応につなげることが研修目標の一つになっています。また災害時には現場-本部間のデータ通信、通話も途絶しがちであることから、衛星携帯電話や簡易無線の取扱いに習熟することも学習目標となっています。

受講者は初めて目にするD24Hの操作画面に戸惑いながらも避難所データの入力作業を行い、集積されたデータからどの避難所を優先的に調査・支援するのか検討しました。また、通信事業各社の衛星携帯電話の特性、使用・設置方法について学習しました。研修の最後には総合演習として現場病院と市役所本部に分かれ通信機器設置、情報伝達、データ解析から意思決定まで、実災害さながらのシナリオを体験しました。厳しい寒さのなかでの訓練となりましたが、受講者は「本当に災害が起きる前に本部の混乱を経験できて良かった」「充実した訓練で楽しかった」と口にしていました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな実践的研修を実施しています。



衛星携帯電話設置使用訓練。
実際に通話し使用可否を確認



手書きの避難所データを
スマホでD24Hに入力



集約データからどの避難所を
優先的に調査支援するか検討



避難所運営ゲームで学校
施設のレイアウトを討議



口頭メモをクロノロに書き
起こし to do 化する



別室と衛星携帯、簡易無線で
交信する模擬市役所本部

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）